

勝浦支部定期大会

動労千葉は勝利した！

反撃の88年へ



87. 12. 15
No. 2722

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（22）七二〇七

十二月九日十三時十分から、勝浦支部定期大会は、支部組合員の経営する民宿「神田」において、代議員・傍聴者六十名を結集して盛大に開催された。十二時三十分、運転区に結集した組合員は、大会会場として運転区講習室を借さないといいJR当局の攻撃に対して、断固とした抗議集会を開催した後、準備してあった大会会場「神田」に向った。

執行部全員が配転されるなかで

団結を守りぬく

清算事業団の中村副支部長は、開会の挨拶で「先頭に立って闘ってきた支部執行部は、書記次長を除いて、支部長の解雇をはじめ全員が配転されるという状況の中で今日まで闘いぬいてきた。新たに選出された執行部を中心に、不当な労働組合解体攻撃と対決し、支部の団結を守り、支部長の解雇撤回、全配転者の原職復帰を勝ちとるまで闘いぬこう。そのために本大会を圧倒的に成功させたい」と述べた。

続いて、鶴岡支部長は「JR当局は、揭示板撤去、組合事務所明け渡し要求、ボーナスカットなどに見られるように、職場に労働運動・組合の存在を認めない攻撃を行っている。今日も会場を借さないといってきた。われわれは、かかる理不尽な攻撃に断固対決していく。いすみ鉄道への出向問題は今後の出向を規定する重要な問題であり、選別差別を許さず闘いぬく」と決意を明らかにしながら過日の団交経過を報告した。

動労千葉は勝利した！ —本部中野委員長が提起—

本部を代表して中野委員長は、「分割・民営化攻撃の中で去るも地獄・残るも地獄、立って闘うのか、奴隷となるのかが突きつけられ、われわれは立って闘いぬいた。この闘いの過程では二八名の解雇、十二名の清算事業団をはじめ大きな犠牲を強いられた。しかし、国労が二十万人から四万人、動労は労働組合とはいってもおこがましい存在に転落する中で動労千葉は七〇〇余名がJRに残り基本的骨格を維持しながら存続している。これは勝利である。一方、国鉄は四・一以降も、長期債務問題、財界の喰い物にされるなどの基本的構造は何も変わっていない。しかし、労働条件の悪化と労働運動解体攻撃だけが大きく進行した。権力・JR当局は、そのパートナーとして革マルを選んだが、大公望の会に見られる様にいろいろ矛盾が現出し、今後更に大きくなるだろう」と語り、さらに、第十二回大会で確立された動労千葉の方針について全面的に展開し、闘う決意を明らかにした。

いすみ鉄道沿線の問題を
中心に活発な討論



新役員

支部長	鶴岡直芳
副支部長	鈴木忍
書記長	長田敏之
執行委員	加田嘉郎
〃	岡正人
〃	石井謙治

続いて、執行部より、経過報告、決算報告、連立方針案、予算案の提案が行われ討議に入った。討論は、いすみ鉄道出向問題が中心となったが質疑の主なものは次の通りである。①出向の人数の基本および出向期間終了後の復帰の扱いについて ②出向に伴う欠員補充について ③年末手当五%カットに対する対応について ④JRの展望について ⑤物販一人二万円目標だが組合員のバラつきがあるが支部はどう指導するのか ⑥清算事業団は三年たったらどうなるのか。原職奪還のためにどう闘うのか。⑦出向は従来の規定を一方的に改悪し、前照灯・濃霧時等の運転について、運転規制の条文をはずし乗務員の注意力のみ頼る運転を強制し、運転保安は危機にさらされている。討論は情勢を反映し、極めて真剣な論議が展開され、これらに対し、支部・本部からの答弁があり、十六時、支部長の団結ガンパロー三唱をもって成功裡に終了した。

冬季物販の目標達成に向け最後のおいみ

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！